

国際力動的心理療法学会

第24回年次大会

大会テーマ 「レジリエンス Resilience」

日時：2019年3月1日（金）— 3日（日）

会場：常葉大学草薙キャンパス

〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1（JR 東海道線草薙駅 徒歩4分）

第2号通信 Welcome to Exciting IADP !!

駿府城をめぐる力動

静岡駅から程近い、街の中心部に駿府城址があります。その周りには市役所や県庁などが立ち並び、県の中心地として朝早くから人々が行き交う、とても活気にあふれた地域です。

最近読んだ記事に面白いものがありました。あの徳川家康が天下を秀忠に譲った後、幕府を側面から支えるべく晩年を過ごしたこの駿府城の天守台（天守閣の土台となる部分）の大きさは、これまで日本最大と言われてきた江戸城のそれをも上回るということが近年の発掘調査によって分かったのだと言います。ただ、その上の天守閣は天守台いっぱいに建てられることはなく、大きさは江戸城のそれよりも小さかったようです。研究者は「(当初は)家康への”付度”から家臣たちが江戸城よりも大きな天守を作ろうとしたが、將軍のいる江戸城よりも大きな天守を作ること在家康がとどめ、そうならなかったのではないかと指摘しています。また家康は、西国から江戸を攻めようとする勢力がいた場合に備え、大きな城を建てて息子たちを守ろうとしたのではないかと」という意見もあるそうです。

天下統一を果たした家康のために日本一大きな天守閣を持つ城を作ろうとした家臣たちと、息子への配慮からかそれ押しとどめた家康、そして息子たちを守る盾となろうとした家康。「お城の大きさ」というデータ一つから、そこに様々な人間模様、力動が読み取れる可能性があるようです。

今回初めてIADPが開催されるこの静岡の地で、我々も力動的に物事を捉えていく楽しさ、面白さ、そして不思議さを味わいたいと思います。皆さんも一緒に力動探求の旅に出てみませんか？私も静岡初心者ではありますが、皆さんのご参加をここ静岡でお待ちしております！

参考文献：THE PAGE「江戸城よりも大きかった駿府城天守台の謎、家康の家臣に付度はあったのか？」2018, 7, 17

第24回年次大会 大会副会長 武野 顕吾（ボールパーク・コーポレーション代表）

大会ウェブサイト：<http://www.24annual.iadp.info/>

大会スケジュール

大会 1 日目：2019 年 3 月 1 日（金）

10:30 - 10:45	開会式	
10:45 - 11:45	大会会長講演	嶋田 一樹（大会会長・静岡県立病院機構県立こども病院）
12:00 - 13:00	大会基調講演	小林 朋子（静岡大学教育学部）
14:30 - 16:10	研究発表	
16:30 - 18:30	シンポジウム 「危機とレジリエンス」	
シンポジスト	「統合失調症を中心とする精神病患者とレジリエンス—病院臨床の立場から—」 能 幸夫（湘南病院） 「大震災 PTSD 心理療法の立場から」 橋本 和典（PAS 心理教育研究所） 「セルフケアとレジリエンス—精神看護 CNS の個人・組織への介入—」 宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究科） 「医師の立場から（仮）」 加藤 寛幸（特定非営利活動法人国境なき医師団日本 会長）	

大会 2 日目：2019 年 3 月 2 日（土）

10:00 - 11:00	市民公開プログラム① 教育講演	宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部）
12:00 - 14:30	市民公開プログラム② 実践編	
14:45 - 15:45	エドワード・ピニー記念講演	牛島 定信（ほづみクリニック） 「最近の青年期における人格発達をめぐって - 精神医学的病態の変容を考える」
16:00 - 19:00	訓練ワークショップ	
予定講師	① プロスポーツ選手の心理療法（仮）・・・・・・・・・・ 武野 顕吾・百瀬 容美子 ② PTSD 予防と心理療法 ・・・・・・・・・・ 橋本 和典 ③ Resilience as the Capacity for Love in the Child ・・・・・・・・ Ralph Mora ④ 事例研究法（仮）・・・・・・・・・・ 小谷 英文 ⑤ 応答構成法（仮）・・・・・・・・・・ 能 幸夫 ⑥ パーンアウト予防のための Story Making Group（仮）・・・・・・・・ 花井 俊紀	
19:30 - 21:30	懇親会	

大会 3 日目：2019 年 3 月 3 日（日）

9:45 - 11:45	事例スーパーヴィジョン	
予定講師	① 牛島 定信 先生（ほづみクリニック）：（力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など） ② ラルフ・モラ 先生（個人開業 / メリーランド大学）：（力動的心理療法、子ども・家族、PTSD など） ③ 宇佐美 しおり 先生（熊本大学大学院生命科学研究部）：（セルフケアセラピー、リエゾン・精神科精神看護など） ④ 能 幸夫 先生（PAS 心理教育研究所）：（力動的心理療法、集団精神療法、精神病、病院臨床など） ⑤ 橋本 和典 先生（PAS 心理教育研究所）：（力動的心理療法、集団精神療法、青年期、PTSD など）	
13:00 - 14:00	総会	
14:15 - 16:15	全体ケースセミナー	
16:20 - 16:30	閉会式	

ゲスト・ファカルティ

ー国内外、トップの臨床家から学びましょう！ー

牛島 定信 先生

エドワード・ピニー記念講演・事例スーパーヴィジョン

講師紹介

九州大学医学部卒業。ロンドン大学精神医学研究所留学。福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授、東京女子大学教授、日本精神分析学会会長、日本森田療法学会理事長、日本サイコセラピー学会理事長、日本児童青年精神医学会理事長を歴任。人格障害、青年期の精神病理の解明および力動的精神療法の実践、研究をリードしてきた、日本を代表する精神分析医であり、精神分析的な精神医学に最も貢献してこられたお一人である。

主要著書

『思春期の対象関係論』金剛出版

『境界例の臨床』金剛出版

『対象関係論的精神療法』金剛出版

『心の健康を求めて 現代家族の病理』慶應義塾大学出版会

『人格の病理と精神療法 精神分析、森田療法、そして精神医学』金剛出版

翻訳書、啓蒙書、他多数。

ラルフ・モラ先生

訓練ワークショップ

講師紹介

アデルファイ大学において臨床心理学の博士号を取得。アメリカ陸軍戦略大学およびテキサス A&M 大学において卒業研究を完成させた。長年、兵士の PTSD 治療、戦地に向かう軍人・兵士の子どもたちへの心理的対応、子どもの PTSD 治療に精力的に取り組んでいる。2014 年にアメリカ国防総省での仕事を引退し、現在はメリーランド大学の非常勤教授を務め、また山口県岩国市にて個人開業を行う。最近の論文には、統合された早期児童発達、心的外傷後ストレス障害、アディクション、統合された保健行動学に関するものがある。

ワークショップ紹介

Resilience as the Capacity for Love in the Child

The main concepts of this presentation are those of self-determination and self-surrender as the foundations of the psychological development of the child. The drive towards self-determination allows the child to be unique while self-surrender is what allows the child to participate in society. Both are necessary components. The development of only one of these produces a psychologically unhealthy child and a distasteful society (Angyal, 1951). Self-determination expresses itself in spontaneity, self-assertiveness, striving for freedom and for mastery. Self-surrender expresses the child's attempt to become a part of something that he considers greater than himself. In effect, the child strives to be both a unifier of his immediate personal world and a participant in what he views as the superordinate world in which he exists. Together these form a gestalt and allow the child to develop the experience of true love. The resilience of the child as viewed from this perspective is reflected in the capability allowed the child biologically and within his family and the environment to help him develop both self-determination and self-surrender.

演題募集

一事例スーパーヴィジョン・研究発表一

IADP 第 24 回年次大会では、以下のプログラムに関して演題を募集します。

1) 研究発表	2018 年 3 月 1 日 (金)	14:30-16:10	p5 参照
2) 事例スーパーヴィジョン	2018 年 3 月 3 日 (日)	9:45-11:45	p6 参照

演題発表 申込み手続き

発表を希望される方は、「演題登録用紙」に必要事項を記入して、大会事務局までメールもしくはファックスにてお送りください。演題登録用紙は、大会ウェブサイト (<http://www.24annual.iadp.info>) からワードファイルでダウンロードすることができます。

後日、大会事務局より「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」をお送りします。「研究発表要項」は、大会ウェブサイトからご覧いただけます。なお、各発表は「4) 発表要旨受理の審査」によって受理された順に定員になり次第締切となります。お早めに申込ください。

発表までのスケジュール

- 1) 演題登録：登録用紙の提出 受付期間：2018 年 7 月 19 日 (木) ～ 11 月 1 日 (木)
- 2) 「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」の受取
- 3) 発表要旨の作成・提出 締切：2018 年 11 月 8 日 (木)
- 4) 発表要旨受理の審査
- 5) 審査結果の通知 提出後約 2 週間
- 6) 最終発表要旨の提出 2018 年 11 月 30 日 (金)
- ↓ 6) 当日発表

注記

- ・全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。
- ・研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金名や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。
- ・企業・法人組織等からの補助や援助（金額は問いません）を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください（利益相反の公開義務）。なお、公的な研究助成金等（科研費等）は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

演題登録用紙送り先

国際力動的心理療学会 第 24 回年次大会事務局

E-mail: office24@24annual.iadp.info

FAX: 054-297-6101 (FAX でお申込みの場合、大会事務局からの連絡にお時間を頂く場合があります。ご了承ください。)

事例スーパーヴィジョン

ー事例に参与し、生きた臨床から学びましょう！ー

IADP の事例スーパーヴィジョンでは、国内外の第 1 線のスーパーヴァイザーの超えた (super) 視野 (vision) を得て事例を新たに理解し、次の面接でどのようにクライアント／患者に働きかけるのか、次の一手を明確にすることができます。日々の臨床で事例対応に困っている方、事例理解を深めたい方、事例展開に煮詰まっている方、どうぞ IADP のスーパーヴィジョンを活用してください。

以下のスーパーヴァイザーのキーワードを参考に、希望スーパーヴァイザーをお選びください。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。海外のセラピストからスーパーヴィジョンを受けたい場合には、英語での発表を歓迎します。発表要旨は英語で作成していただきますので、ご留意ください。英語での発表要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局までご相談ください。

スーパーヴァイザー

- ① 牛島 定信先生 (ほづみクリニック) : (力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など)
- ② ラルフ・モラ先生 (個人開業 / メリーランド大学) : (力動的心理療法、子ども・家族、PTSD など)
- ③ 宇佐美 しおり先生 (熊本大学大学院生命科学研究部) : (セルフケアセラピー、リエゾン・精神科精神看護など)
- ④ 能 幸夫先生 (PAS 心理教育研究所) : (力動的心理療法、集団精神療法、精神病、病院臨床など)
- ⑤ 橋本 和典先生 (PAS 心理教育研究所) : (力動的心理療法、集団精神療法、青年期、PTSD など)

国際力動的心理療学会第 24 回大会 「事例スーパーヴィジョン」発表要項

以下の様式に沿って事例スーパーヴィジョン資料を作成してください。

1. 発表要旨の作成
 - i. 要旨は発表言語 (日本語もしくは英語) で作成してください。
 - ii. 日本語の場合は 2000 字以内、英語の場合は 500 語以内で作成してください。
 - iii. 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないで下さい。
 - iv. 事例要旨は、以下の様式でご提出ください。
 - ①事例要旨の題名 (20 語以内)、②著者名と所属、③発表の目的、④事例の診断あるいは心理アセスメント、⑤治療計画、⑥事例概要 (定性データ・処方 of オリエンテーション・臨床像・家族構成・来談経緯・事例経過を含む)、⑦検討ポイントの呈示 (「当日発表する」というような不明瞭な表現は避けてください。)、⑧キーワード 3 つまで。
 - v. 下記の項目をキーワード選択の際の参考にしてください。

発達位相 (幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期)、病態水準 (神経症水準、人格障害水準、精神病水準)、性別 (男性、女性)、診断、査定、技法、セッティング (外来、入院／病院、教育機関他)、力動的心理療法／個人心理療法／集団精神療法／コンバインドセラピー、トラウマ、PTSD、うつ、転移、抵抗、

ワーキングスルー、精神看護、セルフケア、リエゾン精神看護

2. お送りしたテンプレートに上記様式に沿ってご記入頂き、下記の大会事務局のアドレスまでメールで添付してお送りください。添付資料には必ずパスワードを掛けていただきますよう、お願い致します。
大会事務局アドレス : office24@24annual.iadp.info
3. 提出期限は、2018 年 11 月 8 日 (木) です。

注記 :

- ・ 要旨をご提出される前に、共同発表者と内容の確認を行ってください。
- ・ 全ての事例検討発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理します。

要旨の受理と発表 :

1. 事例選定審査委員会が事例要旨を精査し、2 週間程度で発表者に結果を通知します。
2. 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2018 年 11 月 30 日 (金) まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

研究発表・演題募集

一日常の臨床を研究し、更なる研究に繋がしましょう！

IADP の研究発表

「心理療法是事例研究に始まり、事例研究に終わる。」心理療法に関する能力を高めていくには、事例研究が欠かせません。クライアントの心理療法プロセスはそのクライアントの事例研究となります。IADP では、心理療法の臨床実践と研究を分けず、臨床を研究することを積極的に取り組んでいます。

良い事例報告はそのまま事例研究に通じていきます。今取り組んでる臨床事例を研究したいと思っているけど、どう研究していいかわからないという方、まずはその事例の事例報告から始めてみませんか？

事例研究で明らかになったことをより実証的に調査的に研究するリサーチも広く募集しています。

皆さんの日々の臨床にある面白い変化、面白い力動、効果的な技法・技術の発見などを IADP で発表し、積極的に議論しよう！

国際力動的心理療法学会第 24 回年次大会 「臨床研究発表」要項

以下の形式で発表要旨を作成してください。

1. 臨床研究発表分野について

1) 「事例報告」

事例報告 (Case Report) とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、あるいは、危機介入や治療過程における力動的理解・分析にもとづいた介入（看護領域における看護面接、治療面接を含む）（以下、「力動的介入」とする）による事例の臨床検討報告を指す。報告の主な目的は、クライアントおよび患者の内的体験を、その事実資料に基づき可能な限り再構成することである。以下の構成でまとめられ、臨床蓄積事例として価値の認められるもの、あるいはその領域の今後の研究展開に対する促進的意義の認められるもの。事例報告の構造は以下のとおりである。

①問題（はじめに、序、問題の所在と背景）

事例性の同定とその特異性あるいは、類似性の確認および検討課題を特定化し、その背景、今日共有されている理論的理解や先行研究の知見もレビューできると良い。検討課題は、以下の要点を、心理療法および力動的介入過程の重要な変数とした事例全体の理解の追及と共に特定化すること。

- i) 病理、心理力動、人格機能・構造、人格発達
- ii) 家族、友人、集団、環境社会関係、およびセラピストとの関係
- iii) 心理療法／力動的介入理論、治療過程、治療技法、セルフケア看護技法、教育対話手法

②目的

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで検討しようとするのか

- ii) それをどのように検討しようとするのか

- iii) そのための理論や仮説はどのようなものか

③事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。

- i) 事例性：提示事例の選定理由、資料性を示す条件の確認
- ii) 資料内容：目的によって必要なもののみの構成提示例）主訴、臨床像、治療理論／治療仮説／治療計画、治療構成（構造、契約等）／治療技法、治療展開過程（臨床事実）、治療的成果（臨床的变化の事実）

④分析、考察

目的を軸に、資料の厳密な分析と考察を展開し、決して資料にフィードバックできない根拠のない考察に及ばないこと。

⑤結論と今後の課題／展望

結論は、事例資料の検討により明らかになったことと、残された問題の両側面を出来るだけ簡潔にまとめる。問題として、掲げたテーマについての研究展開の展望を書く。

2) 「事例研究」

事例研究 (Case Study) とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、看護手法、教育手法、あるいは危機介入や治療過程における力動的介入による事例を用いて、臨床的、学術的な研究蓄積に貢献するものを指す。事例研究の基本構造は、以下のとおりである。

①問題（はじめに、序、問題の所在と背景）

研究課題の現段階までの先行研究のレビューに基づくテーマの設定と、どこまで明らかにするかの課題の同定を行う。研究テーマは、大きく3つの領域に分かれる。

- i) 病理、心理力動、人格構造・機能、人格発達
- ii) 家族、集団、社会心理の構造とメカニズム
- iii) 心理療法、教育手法、看護手法あるいは力動的介入についての理論・過程・技法

②目的および研究意義

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで明らかにしようとするのか
- ii) それをどのように明らかにしようとするのか
- iii) そのための基盤理論や、新たな仮説構成はどのようなものなのか
- iv) 研究意義と展望はどういうものか

③方法、手順

研究目的を達成するための方法と手順を明示する。

④事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。事例資料内容は、事例報告とは異なり、目的によって必要なもののみ構成提示することが求められる。

⑤分析、考察

理論および仮説構成をふまえ、研究目的を軸に資料の厳密な分析と考察を展開すること。

⑥結論と今後の課題／展望

結論は、明らかになったことと残された問題の両側面をできるだけ簡潔にまとめ、それに基づいた研究の次のステップとさらなる展開の展望を整理する。

3) 「リサーチ」

ここでの「リサーチ」とは、心理療法、力動的介入、精神分析的な主題に関する実証、調査研究を指す。追試、探索的研究、効果研究、質問紙研究を含め、研究蓄積に貢献するもの。

「リサーチ」の基本構造は、大きくは、上記2分野と重なるために、簡単に示す。①問題 ②目的 ③方法・手順 ④理論 / 概念枠組みおよび作業仮説 ⑤結果 ⑥考察 ⑦結論と今後の課題

2. 臨床研究発表の留意点

1) 事例資料の守秘性

事例資料の入手法および守秘性に関する処置を明確にしてください。また、事例の実施された機関における研究発表規則（倫理審査委員会の認定等）と法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。

2) 研究助成金等

研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金（研究助成番号や）や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。

企業・法人組織等からの補助や援助（金額は問いません）を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください（利益相反の公開義務）。なお、公的な研究助成金等（科研費等）は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

3) 共同発表者

共同発表者がいる場合は、発表要旨をご提出される前に、内容の確認を行ってください。

3. 発表要旨の作成

- 1) 要旨は発表言語（日本語もしくは英語）で作成してください。
- 2) 日本語の場合は2000字以内、英語の場合は500語以内で作成してください。
- 3) 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないでください。
- 4) 前述の募集テーマを、キーワード選択の際の参考にしてください。
- 5) 要旨は、前述の3分野の研究構造にそって簡潔にまとめてください。「結論は、当日に示す」等の曖昧な表現は、避けてください。

4. テンプレートに沿ってご準備いただいた要旨を下記の大会事務局のアドレスにメールで添付してお送りください。お送りいただく際には、必ず添付書類にパスワードをかけて送信をお願い致します。

大会事務局アドレス：office24@24annual.iadp.info

5. 提出期限は、2018年11月8日（木）です。

6. 要旨の受理と発表

- 1) 大会査読委員会が事例要旨を精査し、2週間程度で発表者に結果を通知します。
- 2) 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2018年11月30日（金）まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに大会事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

訓練ワークショップ ー臨床技法・技術、態度の“訓練”ができますー

訓練とは？

訓練という言葉に馴染みがあるでしょうか？力動的心理療法を実践する上で必要な技法・技術や態度は、ただ理論を勉強したり、技法書・手順書を読むだけでは身につけることはできず、実際にその技法・技術や態度を繰り返し行い、身になじませ、鍛えていく訓練が必要です。自分のできなかった技法・技術や態度を繰り返しの訓練の中で身につけて臨床で実践できたときの心地よさはとても大きなものになります。

日本のみならず国際的にもこの訓練を得られる機会は少ない中で、IADPの年次大会では毎年必ず“訓練”ワークショップを開催しています。会員もそうでない方も、初心者もベテランも分け隔てなく一同に集まって、技法・技術や態度を身につけていきます。仲間と共に自らの臨床を鍛えることの楽しさと厳しさをぜひ体験しましょう！

第24回年次大会では、それぞれのトレーナーの特色を活かした5つのワークショップを開催します。詳細は、8月にお届けする大会パンフレットでお知らせします。楽しみにお待ち下さい。

全体ケースセミナー ー大会3日間で身につけたことを使おうー

IADPの全体ケースセミナー

全体ケースセミナーは、年次大会最後のクライマックスです。全員参加で一つの事例の理解を深め、発表者の臨床を前に進めることに挑戦します。発表者も参加者もベテランも初心者もファカルティも、それぞれが3日間の大会で学び訓練した知識・態度・技法や技術をフルに使って事例に向き合います。

ひとりひとりが一つのケースに対して最大限自分の臨床能力を使い、それぞれの仮説が会場を飛び交い、互いに刺激しあうことで、事例の理解が深まります。

ぜひ、この刺激的なケースセミナーにあなたも参加しましょう！

大会参加申込みについて

2018年8月下旬開始予定

プログラムの内容、講演者・訓練トレーナーなどの詳細は、8月下旬発行の大会パンフレットでお知らせいたします。大会ウェブサイトにも随時最新の情報を掲載いたします。

国際力動的心理療学会第24回年次大会 大会事務局
常葉大学草薙キャンパス内 教育学部心理教育学科 百瀬容美子研究室
電話：054-297-6100（代表）

大会ウェブサイト：<http://www.24annual.iadp.info/>